

2021 年度の評価まとめと今後取り組むべき課題

- 今年度もコロナウイルス感染対策を講じながらの保育となったが、普段は縦割り保育で過ごしているが、より少人数で過ごせる様に横割り(学年別)で過ごす期間があった。
- コロナウイルスが予想外に長期間に及んでいる為、子どもたちのマスク着用による身体的影響や危険性等を心配する声が世間的に出だした。
今後の対応を慎重に検討したいと思う。
- コロナ禍の中、行事を取りやめてしまうのではなく、形式を少し変えながら、保護者の参加人数の制限、密にならないよう考慮し可能な限り行った。
- 未就園児クラスは緊急事態宣言中、中止せざるを得なかったが、その中でもキャンセル待ちが出る程たくさんの参加があり、少人数で楽しむことができた。

2021 年度学校関係者評価

- コロナ禍で多くの制限がある中、子どもたちの為に、今できる最大限の事を考え実行して下さった。
- ホームクラスの時間延長や“おうちえん”の導入により、働く保護者や、コロナ禍で園の様子を知る機会が少なくなった所の工夫がたくさんできていた。
- 行事の分散等で保護者同士、顔を合わす機会が減り、仕方ないことだが顔を覚えることができなかった。
来年はクラスなかよし会を始め、親子参加型行事ができるとよい。
- クリスマス会は感染予防対策を徹底して行われていた。学年別の保護者の座席移動の際の消毒作業等、先生方のチームワークの良さがみられました。
子どもたちの聖劇も一生懸命さが伝わり、感動しました。